

研究の窓

日常生活では体験できないが 人間の本质を示唆する 現象に出会える 精神科臨床の魅力。

高橋先生が精神科医になった40年前は、「研究する時間があれば患者を診ろ」という時代で治療に専念しましたが、やはり「研究もしたい」と大学に戻り、臨床研究に入りました。精神科医の希望者は少なかったのが、ここ10年か20年ほどで急増。統合失調症の患者の他に、現在は軽い精神障害の患者も受診し、需要が高まったのが要因だそうです。

「精神医学の特徴の二つは、原因の分からない精神的なものが絡む病に取り組んでいること。てんかんのよう、原因と治療法が分かってくると他の科に移っていきます」

6月には名古屋大学在職中の臨床経験をまとめた「病的嫉妬の臨床研究」が出版されます。



医療福祉学部教授 高橋俊彦

【学歴】

1965年3月 名古屋大学医学部医学科卒業
1966年3月 名古屋大学医学部附属病院にて医学実地修練（インターン）修了
1970年3月 名古屋大学大学院医学研究科博士課程満了（精神医学専攻）
1988年11月 学位授与（医学博士）

【職歴】

1979年1月 名古屋大学講師 医学部附属病院精神科
1985年4月 静岡県立病院養心荘副院長
1991年4月 名古屋大学教授 総合保健体育科学センター、
名古屋大学大学院医学研究科博士課程精神健康医学教授（併任）
2004年3月 名古屋大学定年退官
2004年4月 名古屋大学名誉教授
愛知淑徳大学教授 医療福祉学部（現在に至る）

【高橋先生の 主要著作・論文リスト】

○編著書 □著書

- 「分裂病の精神病理15」
東京大学出版会 1986
- 「精神科症例研究」（共編著）
星和書店 1991
- 「改訂 大学生のための精神
医学」（共編著）岩崎学術出版
社 2004
- 「妄想症例の研究」金剛出版
1995
- 「異常心理学講座第3巻—人
間の生涯と心理」（分担執筆）
みすず書房 1987
- 「現代人の心理と病理」（共著）
サイエンス社 1987
- 「感情障害—基礎と臨床」（分
担執筆）朝倉書店 1997
- 「アイデンティティ」（分担執筆）
日本評論社 1995
- 「病的嫉妬の臨床研究」
岩崎学術出版社 2006



私

の専門分野は精神医学、その中でも臨床精神病理学です。精神科で診察をしていますと、不安とか憂うつなどのように自分でもし

ばしば体験する症状を訴える患者さんが多いのですが、幻覚、妄想など自分では体験したことのない現象を症

状として訴えられることが時にあります。私がこれまで研究対象として

きたのは診断名で言えば、統合失調症、パノニア、うつ病、重症離人症、

重症対人恐怖症といったところです。症状でいえば妄想、離人症といった現

象に関心をもっていました。妄想は実に不思議な現象です。

精神医学という妄想の定義は難しく議論を始めるのですが、ここでも一つの論文になるほどですがこ

ではヤスバースに倣って「確信性が強く、合理的な説明によっても訂正しない

誤った考え」というぐらいにしておきましょう。たとえば「会社の人たちが

私を会社から追い出そうとしている」「あ

の人は私を愛しており、結婚するつもり

でいる」「妻は、私以外の男性とい

医

学実地修練（インターン）を終え、名古屋大学医学部精神医学教室に大学院生として入学した時、教室の精神病理研究グループの先輩たちが、「思春期妄想症」の研究を熱心に続けておられました。自己臭恐怖や自己視線恐怖が「恐怖」の段階を超え「妄想」になってしまった症例です。たとえば他人の偶然的動作を自分の視線のせいであると思ひ込み、

「自分の目つきが異様な雰囲気を出すので、隣に坐っている級友が目をこする」などと訴えたりします。臨床の現場で患者さんたちが訴える具体的事実を報告し合い、議論を通してまとめあげ、多くの文献を参考にしながら理論を組み立てていく様を見ているうちに、臨床研究の魅力にとりつかれ、精神病理学の研究グループに加えていただきました。